

知っていますか？アダルトビデオ出演被害問題 こんな被害が起きています

【親切なふりをして近づく例】

駅前で待ち合わせていた時に、話しかけてきた人が親切そうだったのでSNSのアカウントを交換した。一人で寂しいときなど、SNSで相談にのってもらうようになった。

「お金がない」と送ったら「いいバイトがあるよ」と返事があり、行ってみたら、AVの撮影だった。



【アイドルになりたい心情を利用した例】

アイドルになりたいと、タレント事務所に応募したら、すぐにオーディションに来るように言われた。「仕事が決まったよ」と言われたが、その仕事はAVの撮影だった。



【詳細を示さずに面接を行う例】

インターネットで探したモニター、モデルのアルバイトには詳しい仕事内容が書かれていなかったが、面接に行くとAV出演に誘われた。



【断りたくても断れない例】

AV出演することになったが、怖くなったので、断ろうとすると、「もうオーディションが決まってしまった。行くだけ行って断ればいいよ」と言われて、オーディションを受けたら、「まさか、今から断らないよね？」と言われて、出演を断れなかった。



【契約書がない例】

学費や生活費のために働いていたが、コロナの影響を受け収入が減ってしまい、素人もののAVに出演することにした。ただ、個人で販売等している人で契約書は交わしていない。



【交際相手にだまされた例】

交際相手に「私的な動画記録だから」と言われて撮影した動画が、AVとして販売されていた。



AV出演被害や性暴力の悩み、ひとりで抱えこまないで。ためらわずに、ご相談ください。

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター

はやくワンストップ
☎ #8891

男女がともに活躍できる社会へ

 内閣府
男女共同
参画局